博物館からのお知らせ

博物館講座

10/20(土) 霧島山で秋の植物観察をしよう

霧島山で秋に咲く植物や紅葉する植物、きのこ、地衣類などを観察します。

時　　間　10:00～12:00
対　　象　小学生以上
場　　所　霧島山(えびの市)
募集期間　9/22(土)～10/6(土)
定　　員　25名
駐車場代　500円

10/21(日) 出張講座「チリメンモンスターをGetしよう!」

ちりめんに含まれる小さな海の生きものたち(チリメンモンスター)を探し観察することで、宮崎の海の豊かさを学習します。

時　　間　10:00～12:00
対　　象　小学生以上
場　　所　三股町立文化会館(三股町)
募集期間　9/23(日)～10/7(日)
定　　員　20名

10/27(土) 宮崎の天然記念物めぐり①～日向岬

2018年に国の天然記念物に指定された日向岬をめぐり解説します。健脚向きです。(小学生は保護者同伴)

時　　間　13:00～15:00
対　　象　小学生以上
場　　所　日向岬周辺(日向市)
募集期間　9/29(土)～10/13(土)
定　　員　20名

11/4(日) 男狭穂塚・女狭穂塚古墳を外から観察しよう

九州最大の中期古墳である男狭穂塚・女狭穂塚古墳を外から観察して、古墳の見方、西都原古墳群の形成の歴史やヤマト王権との関係について学びます。

時　　間　10:30～12:00
対　　象　小学生以上
場　　所　西都原古墳群(西都市)
募集期間　10/7(日)～10/21(日)
定　　員　30名

11/11(日) 草木染めに挑戦!

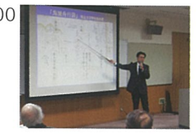
植物を使った草木染めに挑戦します。やさしい自然の色と模様で自分だけのオリジナルグッズを作ります。

時　　間　10:00～15:00
対　　象　小学生以上
場　　所　研修室2・神宮の森
募集期間　10/14(日)～10/28(日)
定　　員　20名

11/17(土) 特別展関連講座「宮崎の歴史を学ぶ②幕末維新期の延岡藩」

資料を読みながら、幕末維新期の延岡藩の動向を紹介します。

時　　間　10:30～12:00
対　　象　一般
場　　所　研修室1
事前申込みなし
定　　員　40名



11/23(金・祝) 宮崎の天然記念物めぐり②～猪崎鼻

2014年に国の天然記念物に指定された猪崎鼻をめぐり解説します。健脚向きです。(小学生は保護者同伴)

時　　間　10:00～12:00
対　　象　小学4年生以上
場　　所　猪崎鼻(日南市)
募集期間　10/26(金)～11/9(金)
定　　員　20名

11/25(日) これからはじめるバードウォッチング

初心者のための野鳥観察講座。神宮の森で野鳥観察の仕方を学びます。

時　　間　10:00～12:00
対　　象　幼児以上
場　　所　研修室1/神宮の森
募集期間　10/28(日)～11/11(日)
定　　員　20名

講座の申込みは、次の方法で受付けます。
詳細は、博物館にお問合せください。

①はがき　②FAX　③ホームページ
④来館時に総合案内

お問い合わせ　TEL 0985-24-2071
FAX 0985-24-2199

展示解説員の声

紙芝居

博物館では毎週日曜日に紙芝居を読んでいます。

会場は博物館2階の歴史展示室。昭和30年代、宮崎市に実際建っていた文化住宅の前に、土管のある広場を再現しています。そこで昔懐かしのレトロな自転車に、紙芝居の台を載せ、解説員が行っています。

「小さい頃、お菓子を食べながら紙芝居聞いたわ～。懐かしいね。」というお声を耳にすることがあります。

残念ながらお菓子は売っていませんが、童心にかえって紙芝居を聞いてみませんか。(植木)

※毎週日曜日　1回目11:30～　2回目14:30～　歴史展示室

観覧時間・休館日のお知らせ

観覧時間　9:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日　毎週火曜日
★12/28(金)～1/4(金)は、年末年始のため休館します。

博物館のホームページにはイベント情報、寄せられた質問とその答え、過去の「森の通信」、Facebook、ツイッターなどの情報が盛りだくさんです。ぜひアクセスしてみてください。

宮崎県総合博物館　検索

森の通信

第65号

自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館
Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/2018年9月20日

発行/宮崎県総合博物館　〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号　TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/　FAX(0985)24-2199

MEIJI150th 明治150年

日向国の明治維新

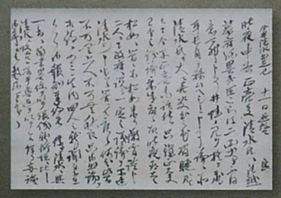
～戊辰戦争から西南戦争まで～

「大功記大山崎之図」(山口県立山口博物館蔵)

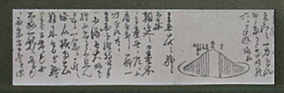
「西郷隆盛都城ニテ大戦図」(本館蔵)

明治維新150周年を記念して、戊辰戦争と西南戦争に焦点を当てながら、政治や経済、社会のしくみなどが大きく変化した幕末・維新期の日向国の歴史を紹介します。

また、吉田松陰や木戸孝允の書簡も展示します。



「吉田松陰書簡　月性宛」(山口県立山口博物館蔵)



「木戸孝允書簡　野村素介宛」(山口県立山口博物館蔵)

島津忠寛所用「鉄糸威胴丸」(本館蔵)

2018年
10/18(木)～12/2(日)

休館日	毎週火曜日
観覧時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
会　場	宮崎県総合博物館　2階特別展示室

観覧無料

講座紹介

佐土原人形絵付け体験

県の伝統的工芸品に指定されている佐土原人形は、土人形で最古の歴史を持つ京都の伏見人形の影響を受けていると伝えられています。縁起人形・節句人形・風俗人形・歌舞伎人形など様々な人形があり、写真にある饅頭喰い人形は特に有名で、賢い子どもに育ってほしいという親の願いが込められています。

約400年前に陶工（すえつくり）によって作り始められ、江戸時代中期には20数軒の店が立ち並び、多くの人形師がいたと伝えられていますが、現在では佐土原人形を継承する店は2軒のみとなっています。そのうち1軒の「ますや」には、佐土原人形を作るための「土型」とよばれる100個以上の2枚型が代々守り伝えられており、現在でもその型を使って人形を作っています。

今回の講座（12月1日土曜日）では、「ますや」6代目人形師の阪本兼次さんを引き継ぎ、10月1日に7代目を襲名される下西美和さんを講師にお迎えして、来年の干支「亥」をかたどった素焼きの土鈴の絵付け体験を予定しています。

世界に一つだけのオリジナル佐土原人形を作ってみませんか。（野添）

佐土原人形（饅頭喰い）

宮崎の歴史情報

古代日向の石庖丁（いしぼうちょう）はどんな形？

弥生時代の水田稲作の稲の穂摘み具として2つの穴（穿孔（せんこう））を有する半月形の石庖丁の図・写真が小・中・高等学校の教科書に掲載されています。形態では外湾刃半月形、杏仁（あんにん）形、直線刃半月形、方形などに分かれ、紐を通す穴のあけ方から、擦（す）り切り技法で1本の溝をあけるタイプと石錐で2個の穴をあけるタイプがあります。また穴をあける代わりに両端に抉（えぐ）りを入れるタイプもあります。

当館歴史展示室（考古）の「米づくりはじまる　弥生の村とくらし　磨かれた弥生の石器」のコーナーに展示している下那珂遺跡（宮崎市佐土原町）の石庖丁は２穿孔と２抉りです。弥生人はどちらに紐をつけて使用したのでしょうか。この抉り入り石庖丁は県内の石庖丁の７割も占め、小丸川下流域、一ツ瀬川中・下流域、大淀川下流域の宮崎平野部の後期後半の遺跡から出土しています。特に平成16～18年調査の尾花Ａ遺跡（川南町）では233点中87％が抉りで石材は小丸川流域のホルンフェルスが主体であるのに対して、平成11～14年調査の下那珂遺跡では149点中83％が抉りで頁岩が主体です。2遺跡ともその数量と未製品が出土していることからそれぞれの遺跡で生産されています。

抉り入り石庖丁は古墳時代前期まで使用され、伊予を中心とした瀬戸内地域に顕著に分布することから海を介しての交流がうかがえます。当館では擦り切り・穿孔・抉り入り石庖丁を展示していますので、その違いをぜひご覧ください。（長津）

下那珂遺跡出土石庖丁

自然史展示室紹介

「鳴き声」まで学べる、宮崎の鳥

自然史展示室には、渡り鳥や留鳥の標本が展示されています。宮崎県は、山林原野が総面積の75％を占めており、照葉樹林を主とする緑豊かな自然環境に、360種ほどの野鳥が確認されています。それらの宮崎県内で記録された野鳥を、夏鳥や冬鳥、留鳥などに分類して展示しています。絶滅に瀕している、クマタカやヤイロチョウなどの貴重な標本は必見です。また、見るだけでなく、鳥の鳴き声を聞くことができます。手元の受話器を取って、鳥の名前のボタンを押せば、その鳥の鳴き声を聞くことができます。鳥の鳴き声を聞いたことがあっても、その鳴き声の主を見たことがある方は少ないと思います。この展示で、宮崎の鳥を見るだけでなく、鳴き声まで学んでみませんか。（竹下）

宮崎の鳥の標本

受話器から聞こえる鳥の声

収蔵資料紹介

硫黄（Sulfur　元素記号S　えびの市硫黄山 産）

自然の硫黄は、主に火山及び周辺の噴気孔で産出します。火山ガスに含まれる硫化水素や二酸化硫黄が冷えてできる鉱物です。火山ガスは刺激臭ですが、硫黄は無臭です。また、可燃性で、水に溶けにくく、色は明るい黄色です。様々な物質と化学反応をします。中学2年生の理科では、鉄と硫黄の反応の実験で、発生する熱により反応が連続的に続くことなどを学びます。こうした性質を利用して、古くから火薬や爆薬の原料や、マッチやゴムなどに使われていました。今年250年ぶりに噴火した、えびの高原の硫黄山でも明治30年頃から昭和37年まで採掘をしていました。現在は、石油を精製するときの副産物として大量にできるので、硫黄の採掘は必要なくなりました。（中山）

利用者からの問合せ

木のコブのようなきのこは「サルノコシカケ」ですか？

樹木に発生するかたいきのこを「サルノコシカケ」と呼ぶことがあります。「猿が腰掛ける」ようなという意味ですが、たくさんの種類をまとめてこう呼びます。

中でも問合せが多いのは、「コフキサルノコシカケ」というきのこで、傘や周辺に胞子がふりつもると、ココアの粉をふりかけたようです。県内では普通に見られ、下の白い面を指でなぞると茶色に変色します。指でなぞって色が白から茶色に変わったら、「コフキサルノコシカケ」の可能性が大きいです。（黒木）

コフキサルノコシカケ